

2025年3月期第2四半期決算報告

証券コード：3434（東証スタンダード）

2024年12月4日

株式会社 **アルファ**

- 1. 会社概要**
- 2. 2025年3月期第2四半期連絡業績（前年同期比較）**
- 3. 2025年3月期連結業績予想（前期比較）**
- 4. 株主還元**
- 5. 活動報告**
- 6. 業績等の推移、経営指標**

1. 会社概要

株式会社アルファ（東証スタンダード市場：証券コード：3434）

代表者 代表取締役 社長執行役員 塚野 哲幸

設立 1923年4月14日（創業101年）

資本金 2,760百万円

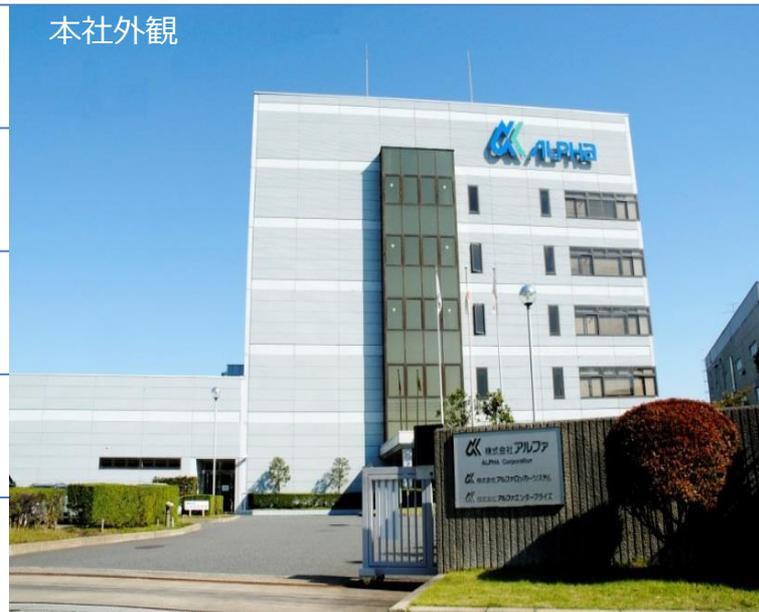
所在地 神奈川県横浜市金沢区福浦1-6-8

英文名 ALPHA Corporation

売上高 74,544百万円（2024年3月期）

従業員数 4,304名（連結）、414名（単体）（2024年3月期）

海外拠点 8カ国 16拠点
アメリカ、メキシコ、中国、タイ、インド、チェコ、フランス、スロバキア



人と物が動く三大アクセス要所で ロック製品やサービスを提供

現代社会において人と物の移動に不可欠な自動車、あらゆる人が毎日出入りをする住宅、移動した先での快適な活動を支えるロッカー。

人と物の動きを支えるそれらを、三大アクセス要所と捉えて、ロック製品やサービスを提供しています。

自動車アクセス事業



住宅アクセス事業



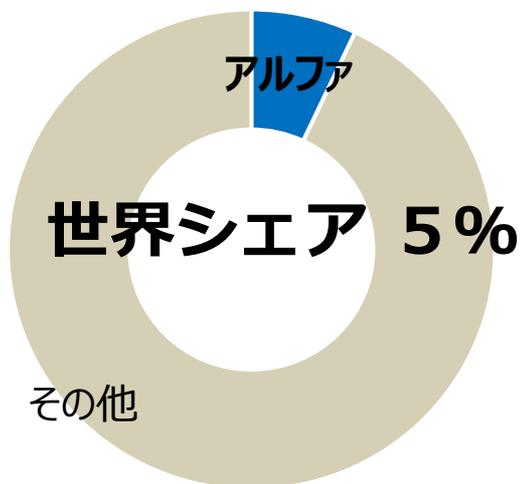
ロッカーアクセス事業



各事業の重要セグメントにおいて 国内トップクラスのシェア

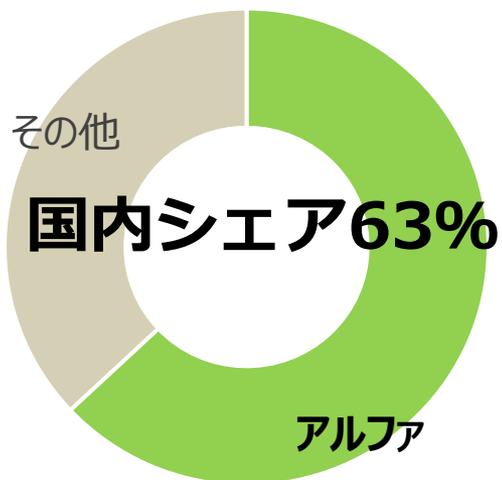
自動車アクセス事業

- ドアハンドル・キーセット



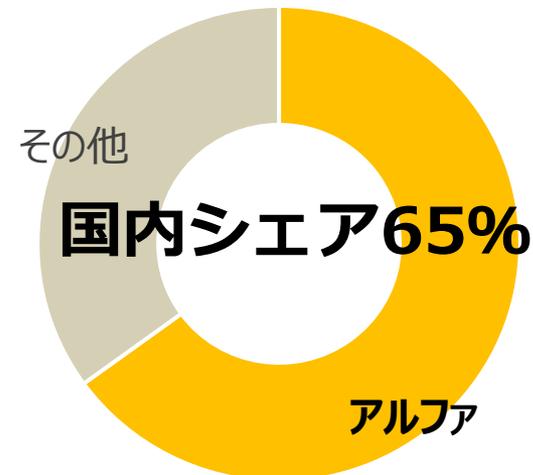
住宅アクセス事業

- 新築住宅向け 電気錠



ロッカーアクセス事業

- ロッカー
(ターミナル、レジャー、貴重品)



※ 各事業シェアは 2023年度売上高実績と市場規模より自社にて算出

アルファの事業領域

自動車アクセス事業

住宅アクセス事業

ロッカーアクセス事業

■ 2024年12月現在 : 5 Region / 9カ国 20拠点 (海外営業所含む)



自動車部品事業 : 5 Region による地産地消の推進

セキュリティ機器事業 : 生産拠点をタイに集約。タイから日本、東南アジア、中国へ販売

人と物のアクセス要所では 今後利用行動や設備が複雑に進化

自動車、住宅、駅・施設ロッカーでは、利用者の行動習慣や、それに応える設備・サービスの進化が、複雑さを増しながら起きている。アクセス行動が複雑化するほど、そこで不変的に「安心」を維持することは、より難しい課題になる。

自動車アクセス事業	住宅アクセス事業	ロッカーアクセス事業
EV化・自動運転化	スマート住宅化	セルフ化・効率化
モビリティのシェアリング	既築住宅の活用	物流の2024年問題
		

「イレギュラーをいくつ解決してきたか？」が安心の根幹

アクセス要所でのロック設備における「安心」の実現には、ユーザーが触れるハード・アプリの開発だけでなく、あらゆる“イレギュラー”を発見して、どの場面でも機能を果たすための製品・サービス・顧客対応を生む繰り返しが不可欠。

自動車アクセス事業



たとえば・・・

不正な開錠に対する防犯性能向上とともに、人命に関わる事故発生時の開けやすさの両立

世界各地極寒地域から熱帯地域まで極端な気候環境や変化に対応できる耐久性能の実現

住宅アクセス事業



たとえば・・・

戸建・集合住宅、新築・既築等様々な住居形態、また建物・建材メーカーの様々な設置条件へ対応

居住者だけでなく賃貸住宅管理会社、賃貸住宅オーナーなどの複数に跨る鍵の管理・運用を安心且つ円滑化

ロッカーアクセス事業



たとえば・・・

駅や空港で出発間近の利用者にトラブルが発生した場合に限られた時間内での迅速対応

取り忘れのお荷物を管理者を介さずロッカー経由で返却を可能にする製品仕様と運用体制

事業毎の経験を相互に活かして「安心」の品質を高められる独自体制

自動車アクセス事業

住宅アクセス事業

ロッカーアクセス事業

事業間でのサプライマネージメントの共有、開発・生産技術の
交流によるアルファ独自プロセスを構築

Point 1. 企画・開発から生産、アフターフォローまで一貫対応

Point 2. 自動車業界で培った厳しい品質基準の適用

Point 3. 車載、民生部材の各購買の協力・連携による安定的な調達の維持

- ・ 自社製品での発生事例をデータベース化。品質確認に活用
- ・ 各OEM先を通して他社製品での発生事例も収集、生産や設計に参考
- ・ 災害、ディスコン部品等の異常事態への対応経験

- ・ 住宅鍵は創業から100年以上の実績
- ・ 電気錠は40年以上の実績、累計販売200万台以上
- ・ コールセンター窓口でエンドユーザーからの困りごとを直接把握
- ・ 自動車業界の厳しい品質基準経験を活かした品質確認水準

- ・ 日本初のコインロッカー投入から60年
- ・ 駅、商業施設、娯楽施設、公共施設など幅広い市場への導入実績
- ・ 荷物預かり、貴重品保管、荷物受け渡し等など多彩な利用シーンに対応
- ・ 自社による運用、保守管理、サービス対応

2. 2025年3月期 第2四半期 連結業績（前年同期比較）

2025年3月期第2四半期 決算のポイント

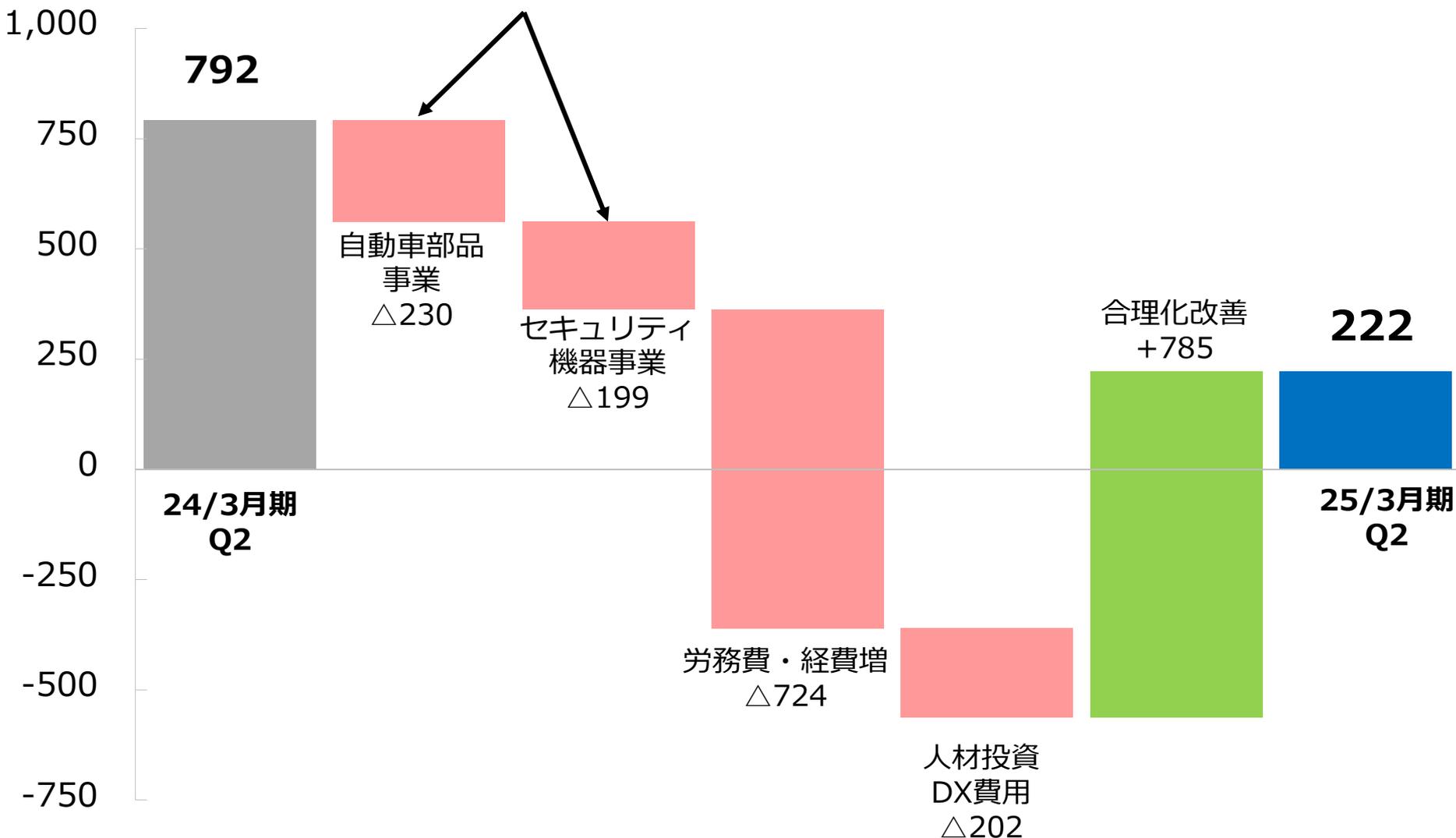
1. 売上高は円安の為替影響等で増収となったが、為替影響を除くと減収。
2. 直材費率は1.1ポイント良化したが、労務費・経費が上昇した影響等で売上総利益率は0.7ポイント悪化。
3. 販管費も労務費・経費の上昇と、DX・人材投資等のため、前年同期比で増加。

(1)連結業績（前年同期比較）

単位:百万円	24/3月期 第2四半期累計	25/3月期 第2四半期累計	増減額	増減率
売上高	36,363	36,606	243	0.7
売上総利益	5,132	4,913	△ 219	△ 4.3
(%)	14.1%	13.4%	-0.7pt	-
営業利益	792	222	△ 570	△ 72.0
(%)	2.2%	0.6%	-1.6pt	-
経常利益	1,475	486	△ 989	△ 67.1
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,216	317	△ 899	△ 73.9
USDレート	140.90円	152.78円	-	-
EUROレート	145.93円	164.70円	-	-

(2) 営業利益増減要因 (前年同期比較)

単位:百万円



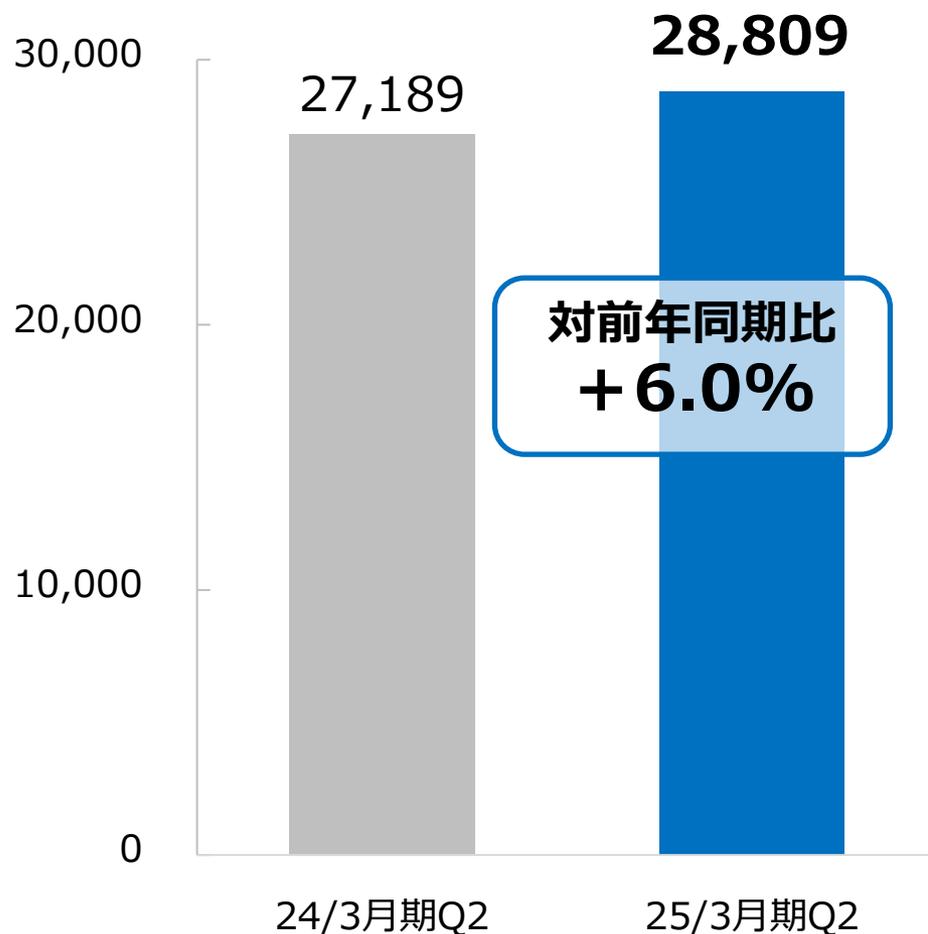
※為替影響を除いた売上高にて計算

(3)事業別売上高・営業利益（前年同期比較）

自動車部品事業

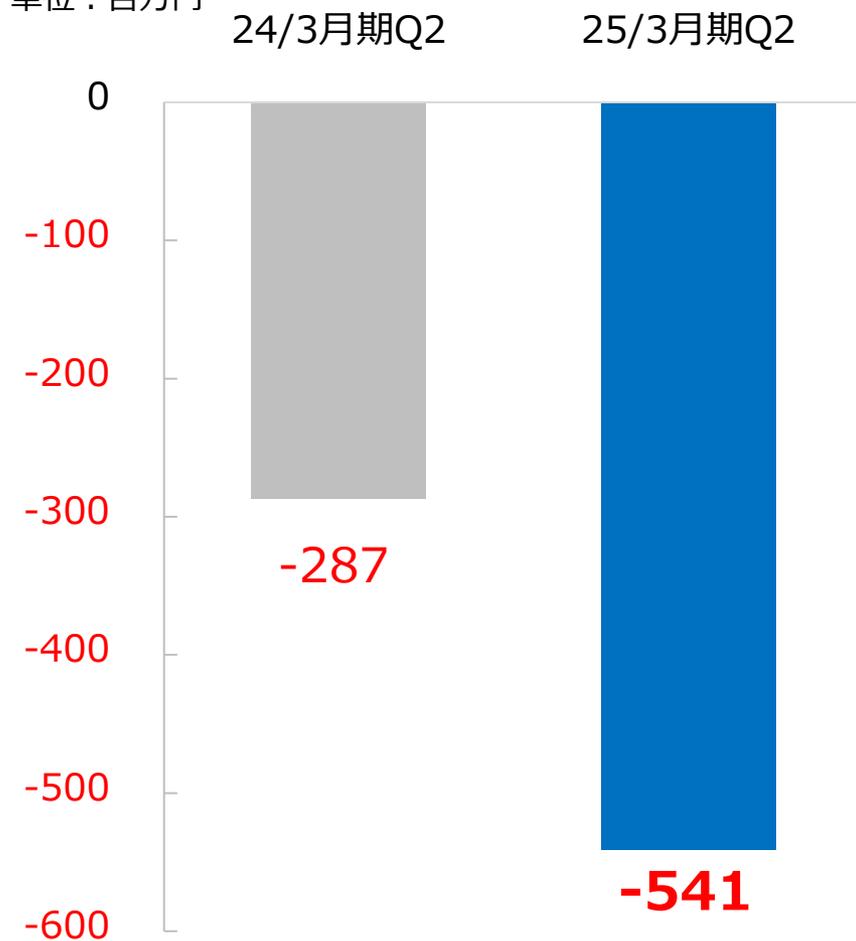
単位：百万円

売上高



単位：百万円

営業利益



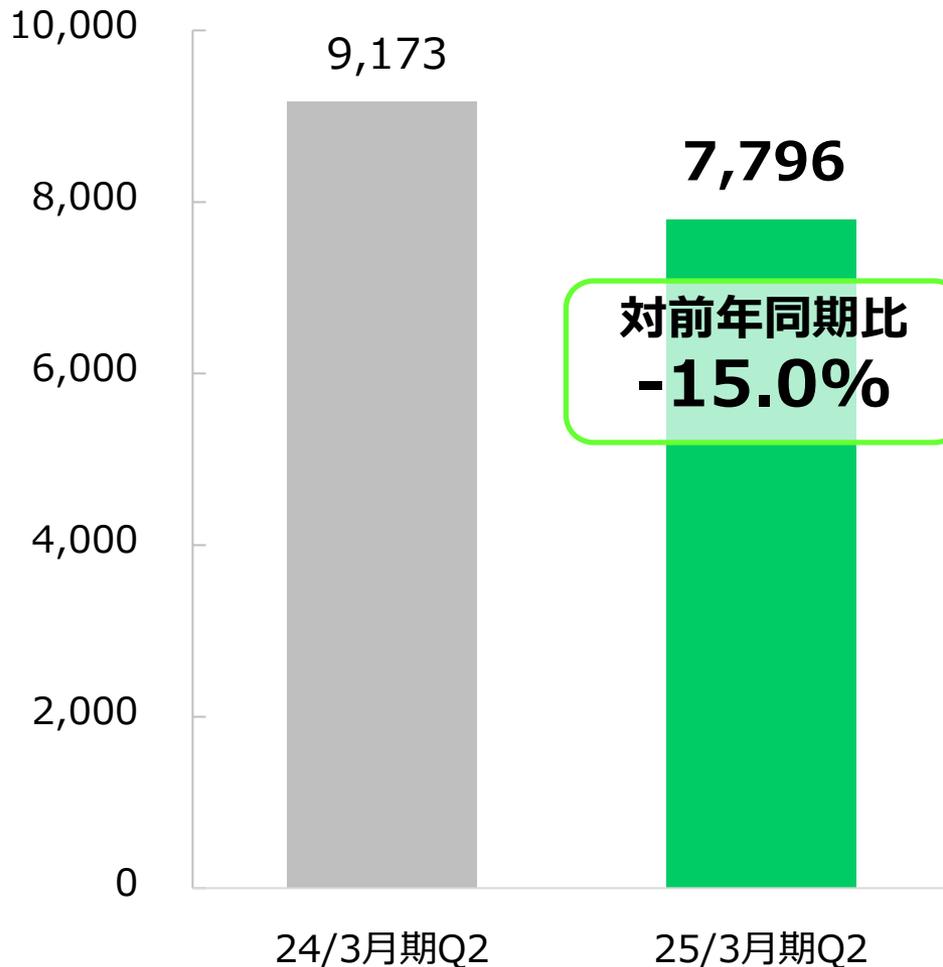
注) 営業利益額は全社調整額を含んでおりません
注) 中国構造改革引き当て費用分を含んでおります

(3)事業別売上高・営業利益（前年同期比較）

セキュリティ機器事業

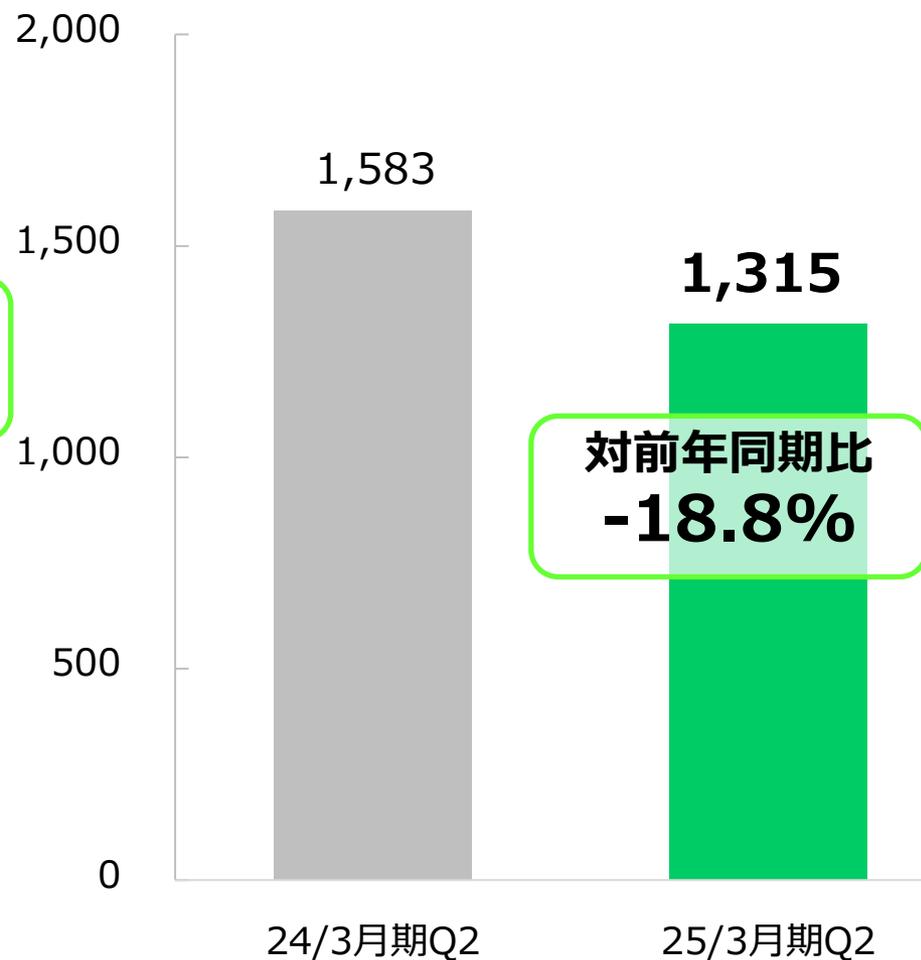
単位：百万円

売上高



単位：百万円

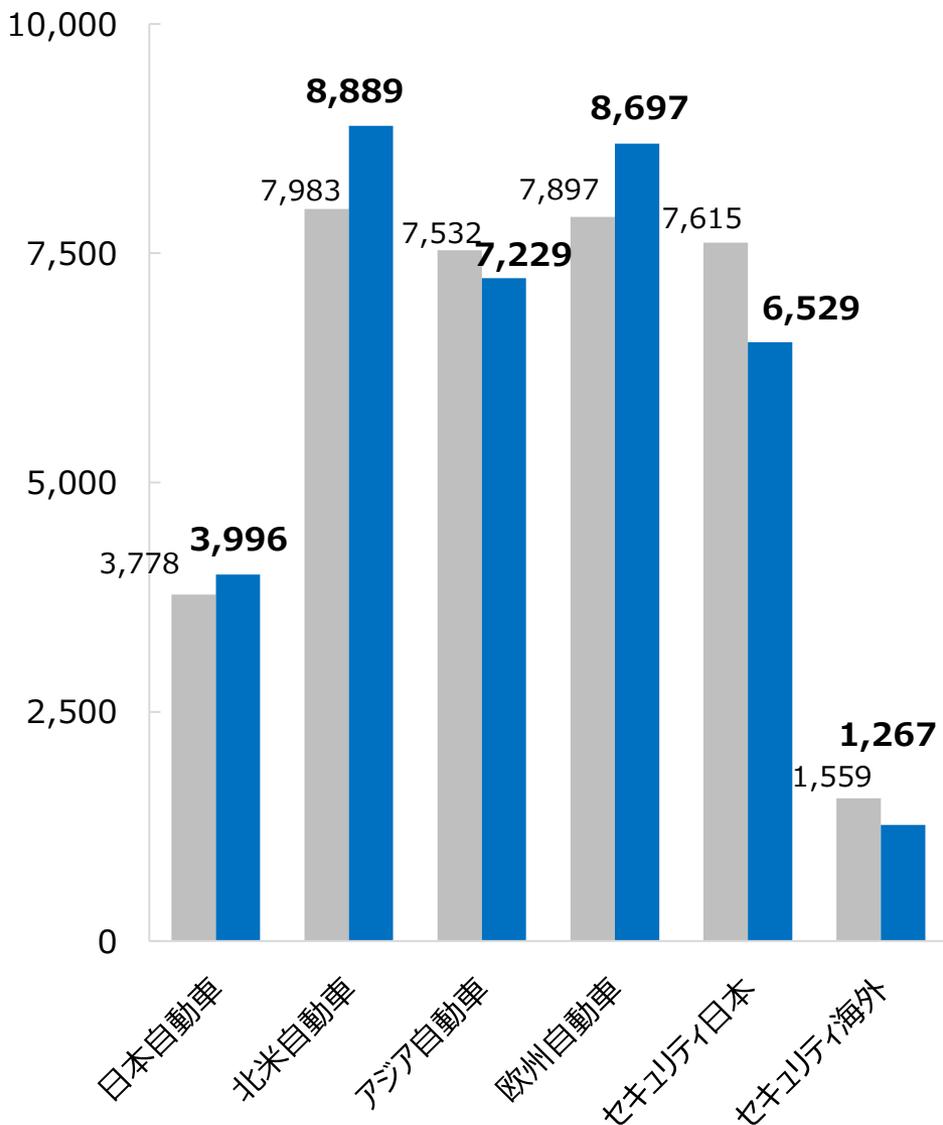
営業利益



注) 営業利益額は全社調整額を含んでおりません

(4)セグメント別売上高 (前年同期比較)

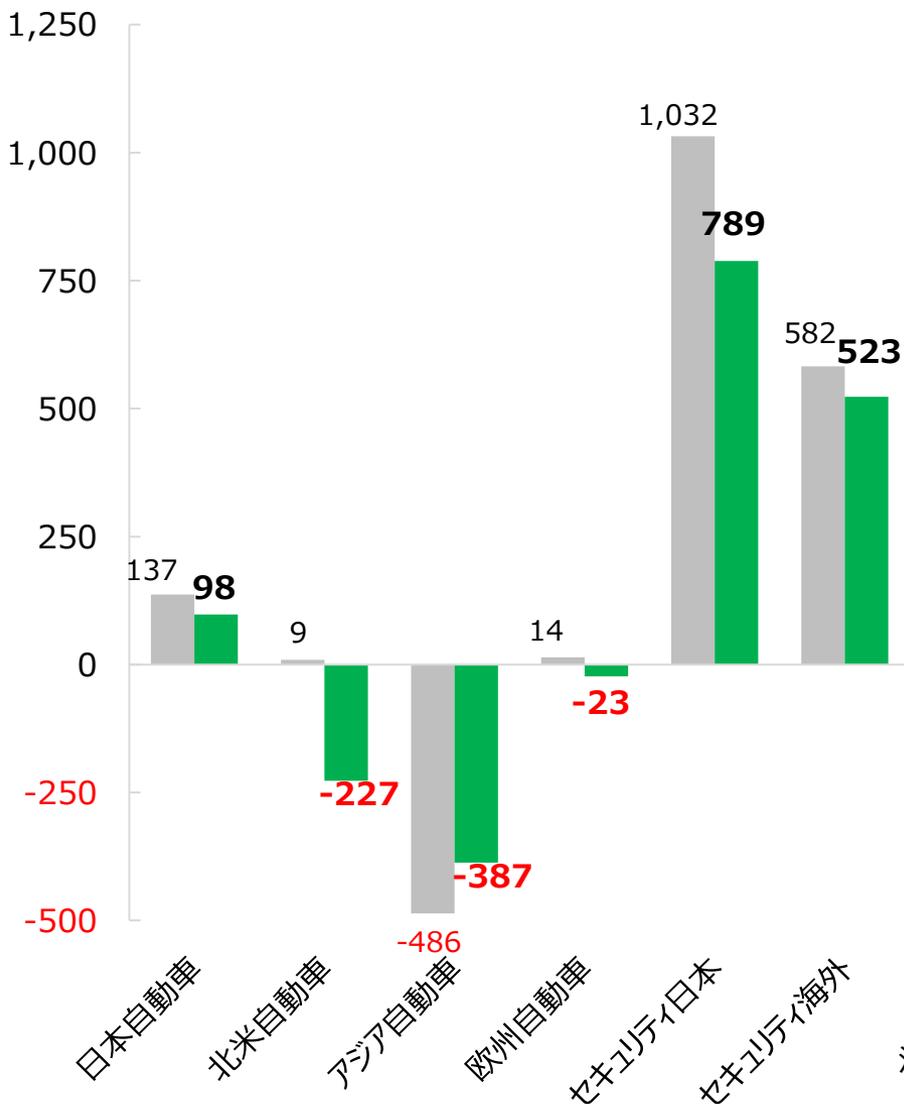
単位:百万円 ■ 24/3月期 Q2 ■ 25/3月期 Q2



セグメント	増減額	比率	増減率	主要得意先 生産増減率
日本自動車	217	10.9%	5.7%	△13.4%
北米自動車	906	24.3%	11.3%	4.1%
アジア自動車	△303	19.7%	-4.0%	△13.2%
欧州自動車	800	23.8%	10.1%	-
セキュリティ日本	△1,085	17.8%	-14.3%	-
セキュリティ海外	△292	3.5%	-18.7%	-
total	243	100%	0.7%	-

(4)セグメント別営業利益 (前年同期比較)

単位:百万円 ■ 24/3月期 Q2 ■ 25/3月期 Q2



セグメント	増減額	利益率	増減率	のれん、PPA償却費
日本自動車	△39	1.9%	-28.5%	-
北米自動車	△236	-2.5%	-	-
アジア自動車	99	-5.0%	-	-
欧州自動車	△37	-0.3%	-	99
セキュリティ日本	△244	10.7%	-23.6%	-
セキュリティ海外	△59	10.6%	-10.2%	-
total	△515	1.8%	-	99

注) 営業利益額は全社調整 550百万円を含まず、
営業利益率は、セグメント間の内部売上高を含む売上高より算出

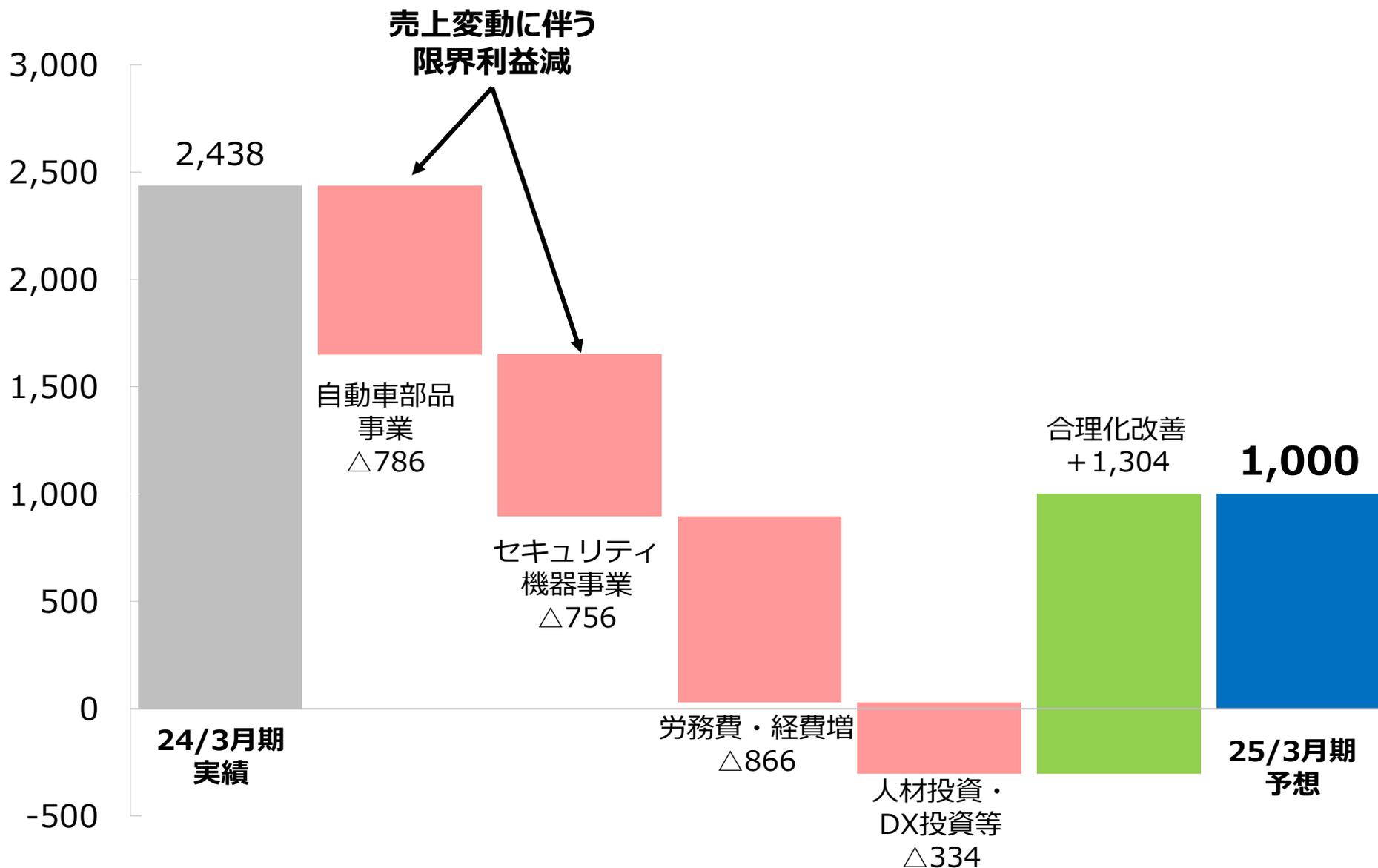
3. 2025年3月期連結業績予想 (前期比較)

(1)連結業績予想（前期比較）

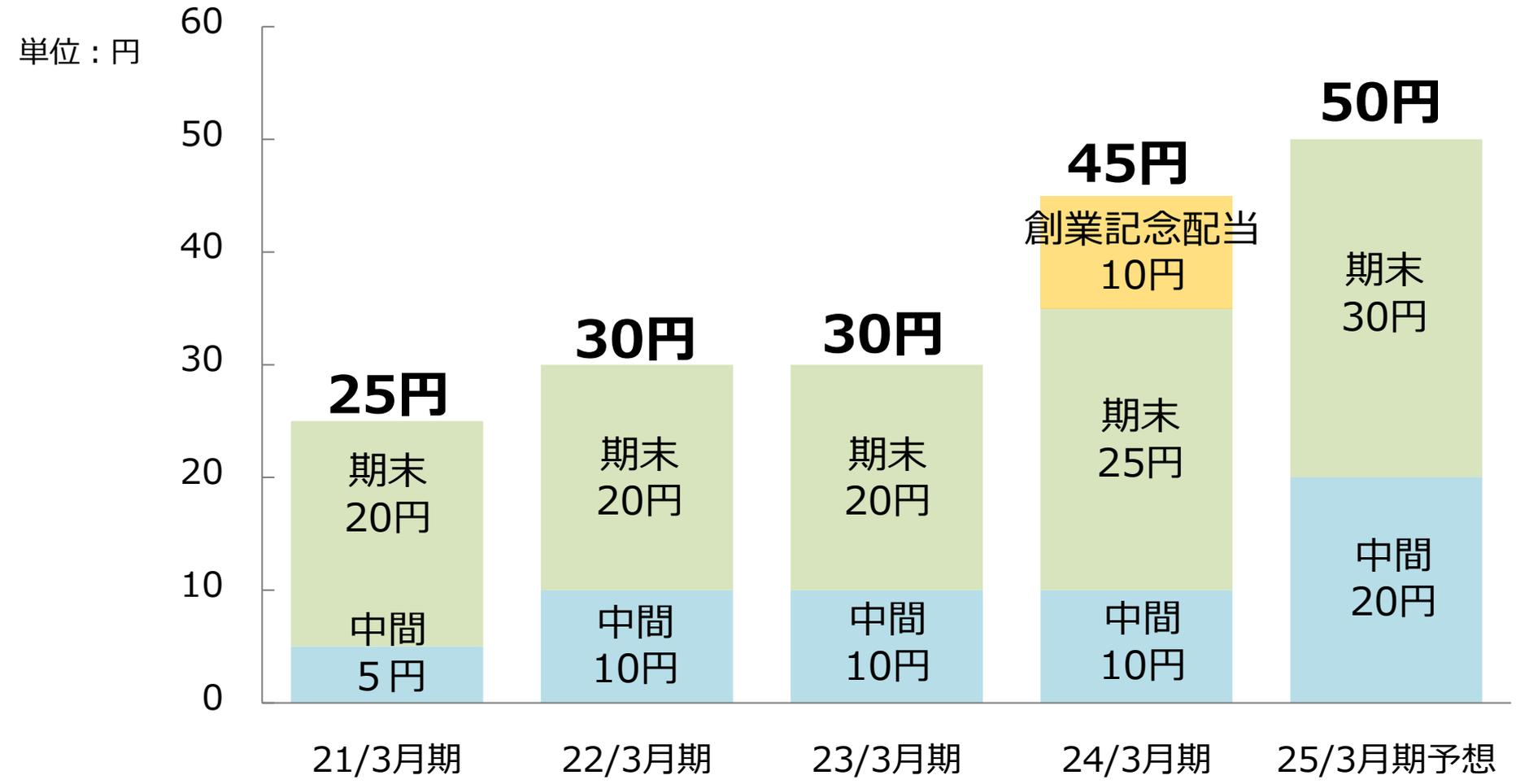
単位：百万円	24/3月期 通期実績	25/3月期 通期予想	増減額	増減率
売上高	74,544	73,000	▲ 1,544	▲ 2.1
営業利益	2,438	1,000	▲ 1,438	▲ 59.0
(%)	3.3%	1.4%	-	-
経常利益	3,116	1,200	▲ 1,916	▲ 61.5
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,802	800	▲ 1,002	▲ 55.6
USDレート	142.16円	152円	-	-
EURレート	151.41円	164円	-	-

(2) 営業利益増減要因予想 (前期比較)

単位：百万円



4. 株主還元



配当性向	106.6%	47.8%	54.8%	23.9%	—
配当利回り	2.0%	2.9%	3.0%	2.7%	—
株価 (期末)	1,229円	1,020円	989円	1,676円	—

5. 活動報告

既存製品・既存組織の枠組みを超えた顧客価値の追求

探索軸

新規事業の創出

新規事業・売上拡大

- 自動車部品事業
：システムモジュール製品含む
シナジー活用による**事業拡大**
- 住設機器事業
：**ストックビジネス**と**既築市場**への**展開**
- ロッカーシステム事業
：**BOPIS※市場** (新規顧客)の**拡大**

成長競争優位
ビジョン2030

現行事業の飛躍

コア事業・利益確保

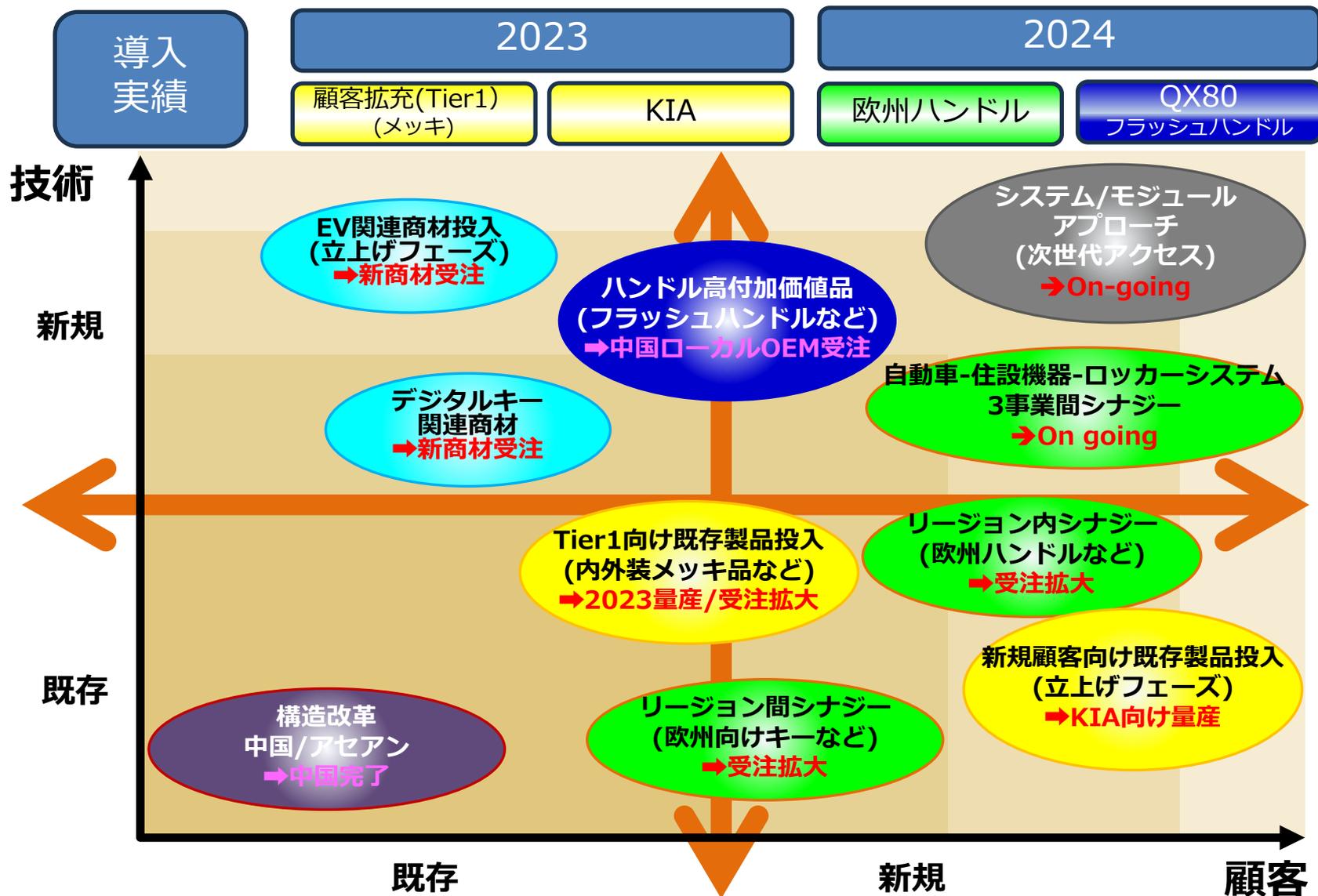
- 自動車部品事業：高付加価値製品へのシフト、**収益基盤**の強化
- 住設機器事業：電気錠の**顧客満足度・認知度向上**による拡大
(トップシェア継続)
- ロッカーシステム事業：「**預かる・渡す**」ソリューションの**創造**
- 管理機能：**人事戦略・知財戦略・DX戦略**の推進

深化軸

既存事業の不断の改善効率化・収益力強化

※ Buy Online Pick-up In Storeの頭文字を取った略称で、「ECサイトで購入した商品を、リアル店舗等で受け取るショッピングスタイル」のこと

●自動車部品事業の顧客・製品ポートフォリオ



● 高付加価値シフト：フラッシュハンドル採用～拡大戦略～

高級ブランドFlagship SUV向けにFlush Handleの量産開始⇒後続車にも搭載計画



耐久品質設計

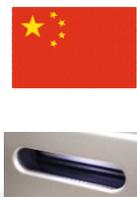


採用車種拡大



次期車に新型 Flush Handle開発

ChinaローカルOEM
新型Flush Handle受注



LCC部品共通化

採用車種拡大

LOCAL OEM拡販

次世代
Access
Trigger
Handle
開発



OEM品質とコスト競争力をベースに日米欧アジア
Global OEMへ新型Handle + Access Trigger製品
を提案。

●パートナーとの協業によるモジュール構想とアプローチ

Customer

新商品・モジュール製品軸
保有コア・不足技術視点他

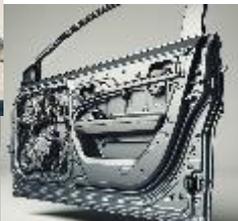
事業Businessモデル軸
生産アセット・SCM・事業視点他

パートナー様との総合的に面で捉えたWIN-WIN協業活動

モジュール・システム構想

パートナー様コア技術事業分野とのアライアンス

新事業Business他新規顧客



複合機能型
Seamless
Style Handle



先進技術部品/Sub-Module構想



コア技術



地政学・生産拠点
アセット

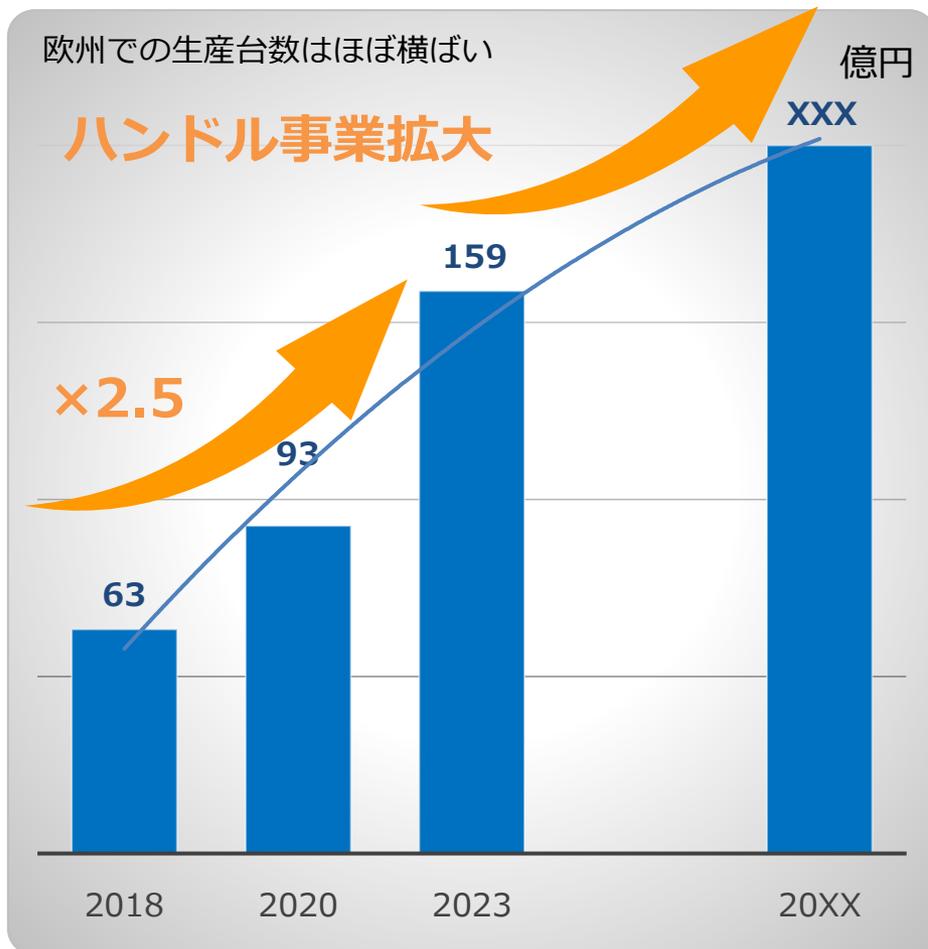
事業・分野

Innovation for Access



自動車アクセス事業	住宅アクセス事業	ロッカーアクセス事業
EV化・自動運転化	スマート住宅化	セルフ化・効率化
モビリティのシェアリング	既築住宅の活用	物流の2024年問題

● 欧州成長投資



主要ポイント

1. Renault向けドアハンドル量産開始

- Duster 3/5 サンク ピラーハンドル
- 開発/コスト競争力を評価頂き、受注拡大中
- その他OEMからも新規引き合い増加中



2. スロバキア工場拡張

- 将来の受注増加の為、工場の拡張に着手

3. 成形工程内転化

- 樹脂成形部品を社内へ取り入れ、更なる付加価値向上/品質の安定化を狙う
- 成長市場に対する投資は継続

**当社グループ No.1の成長市場
積極的な投資を継続する。**

● 中国における事業構造改革

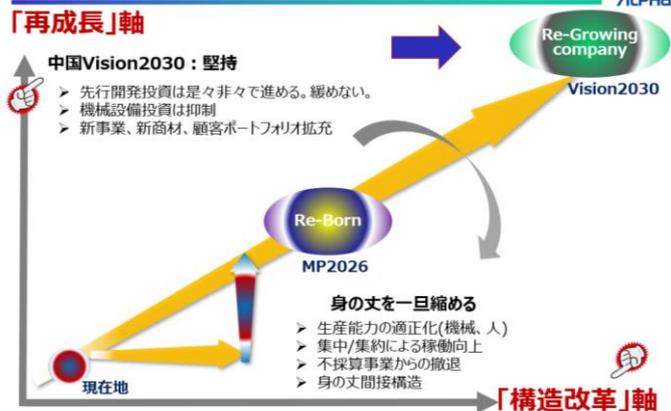
中国事業構造改革

事業構造改革と再成長シナリオの2軸

「再成長」軸

中国Vision2030：堅持

- 先行開発投資は是々非々で進める。緩めない。
- 機械設備投資は抑制
- 新事業、新素材、顧客ポートフォリオ拡充



身の丈を一旦縮める

- 生産能力の適正化(機械、人)
- 集中/集約による稼働向上
- 不採算事業からの撤退
- 身の丈間接構造

◆ 「再成長」軸

- ✓ 中国ローカルOEM向けフラッシュハンドル受注済み(量産準備中)
- ✓ フラッシュハンドル受注拡大中



◆ 「構造改革」軸

生産能力30%削減を実施

- ✓ 襄陽工場を広州工場へ集約
- ✓ 広州メッキ工程を清遠（チンエン）工場へ集約

製品/ポートフォリオ拡充は計画通り
2軸の活動を更に加速させ、再成長へ繋げる。

● PREMIUM SMART LOCK

新商品 「edロックConnect-1」 発売

2024年8月に「PREMIUM SMART LOCK」シリーズの新商品「edロック Connect-1」を発売しました。現行品(edロック PLUS)の製品機能や性能は維持したままに、取り付け対象の拡張を実現しました。



100年の経験がなければ、
本当の安心はつukれない。

**PREMIUM
SMART
LOCK**

プレミアム スマートロック

edロック Connect-1 edロック PLUS ePPH ※新築住宅向け

4つの認証方式が利用できる



※おサイフケータイ®は、株式会社NTTドコモの登録商標です。

●オンラインストア リニューアル

●PREMIUM SMART LOCK鉄道広告実施

- 8月23日にオンラインストアにてedロックConnect-1先行販売を開始
デザインをPREMIUM SMART LOCKをコンセプトに、色調をアルファブルーに統一
- edロックConnect-1発売に合わせてPREMIUM SMART LOCKの鉄道広告を実施

オンラインストアリニューアル

アルファ公式オンラインストア : <https://h-online-store.kk-alpha.com>

リニューアル後



リニューアル前



鉄道広告

- 新杉田駅看板広告 8月23日～
- 品川駅、大阪駅 デジタルサイネージ広告 8月26日～9月1日



新杉田駅看板



品川駅デジタルサイネージ



大阪駅デジタルサイネージ

●日本初コインロッカー誕生から60年を迎えました。

インバウンド対応

マルチ決済対応



電子マネー QRコード クレジットカード

多言語対応



5ヶ国語ガイダンス



QR Translator.



使い方説明13カ国語

物流2024年問題対応

宅配再配達品のロッカー受取り



遠隔管理
空きロッカー情報



関西圏・全国へ拡大中

関西電鉄へ拡大中

阪急・近鉄・南海・京阪・大阪メトロ等



ターミナル以外へ拡大中



コインロッカー誕生



since 1964

●DX戦略 スマート工場化の取り組み

止まらない工場、ストレスのないものづくり

可視化

品質管理強化

異常予知・予防保全

トレーサビリティ

工程進捗管理

基幹システム連携

MES※ 導入

IoT（エッジ領域） データ取得 制御



設備 ロボットによる自動化



最適化

生産計画の自動化

適切な人員配置

高精度な予実収集

在庫精度の向上

「歩留まり、機械停止、品質不具合、計画変動、過剰生産」様々なロスの排除

在庫
のムダ

造りすぎ
のムダ

加工
のムダ

手待ち
のムダ

動作
のムダ

不良、手直し
のムダ

運搬
のムダ

※ MESとは、Manufacturing Execution Systemの略で、製造工程の把握や管理、作業員への指示や支援などを行う「製造実行システム」。

E：環境

「えのすいeco」活動の支援



E：環境

S：社会貢献

スマートロック
賃貸管理会社のDX化に貢献



E：環境

S：社会貢献

食品ロス対応ロッカー展開
(ロッカー型自販機)

「おいしいがもったいない。」



横浜市
食の3R きら星活動賞
受賞

市営地下鉄関内駅、馬車道駅、
横浜アイスアリーナで運用中
横浜を起点に全国展開を計画

S : 社会・地域貢献

【日本】

- ・ こども参観日を実施（2024年8月）



- ・ 弊社従業員が
第23回全国障害者スポーツ大会
「SAGA2024」に参加（2024年10月）



S : 社会・地域貢献

【タイ】

- ・ 小学校へ寄付金を贈呈（2024年1月）



【メキシコ】

- ・ 職場見学会を実施（2024年4月）



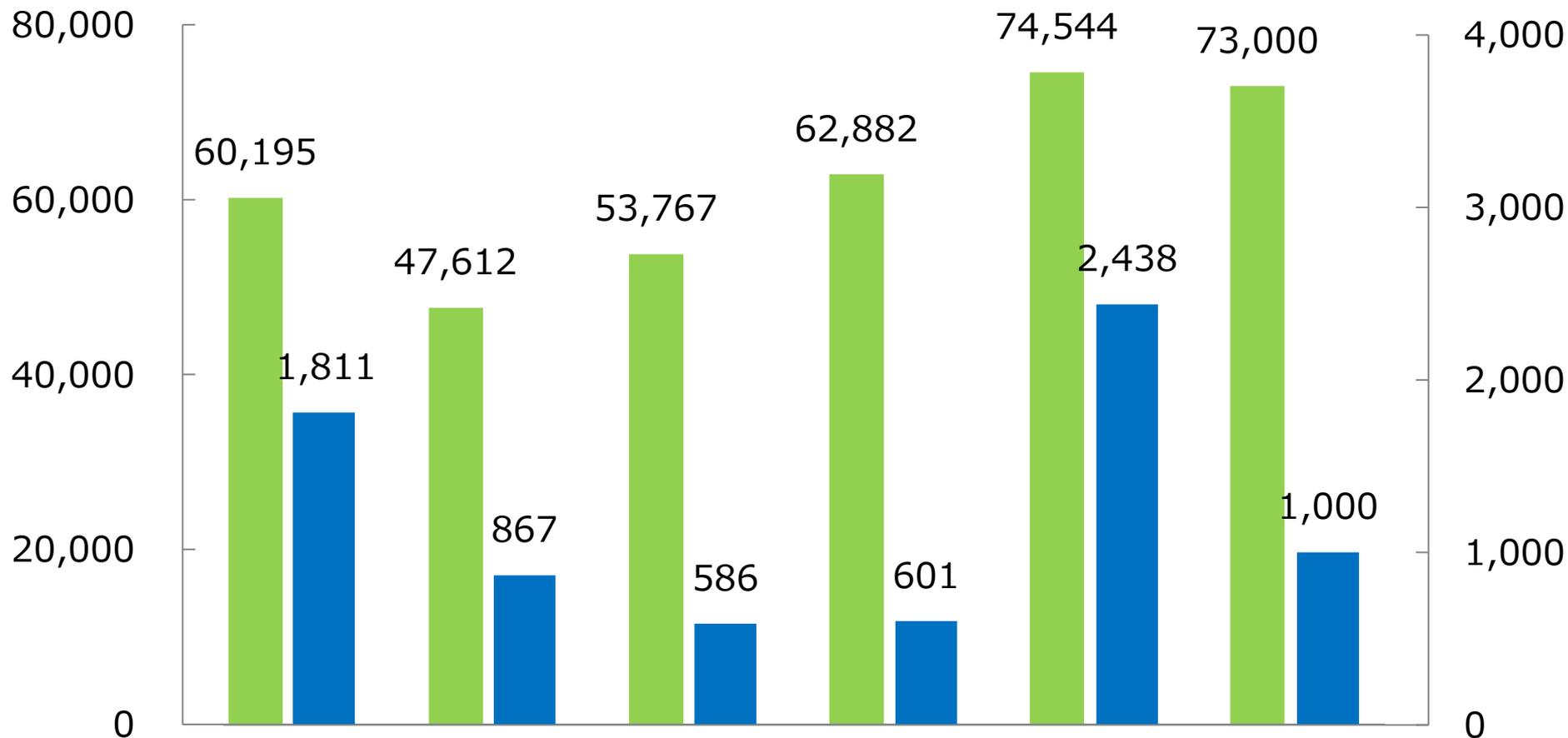
6. 業績等の推移、経営指標

(1)過去の連結業績推移

単位：百万円

売上高

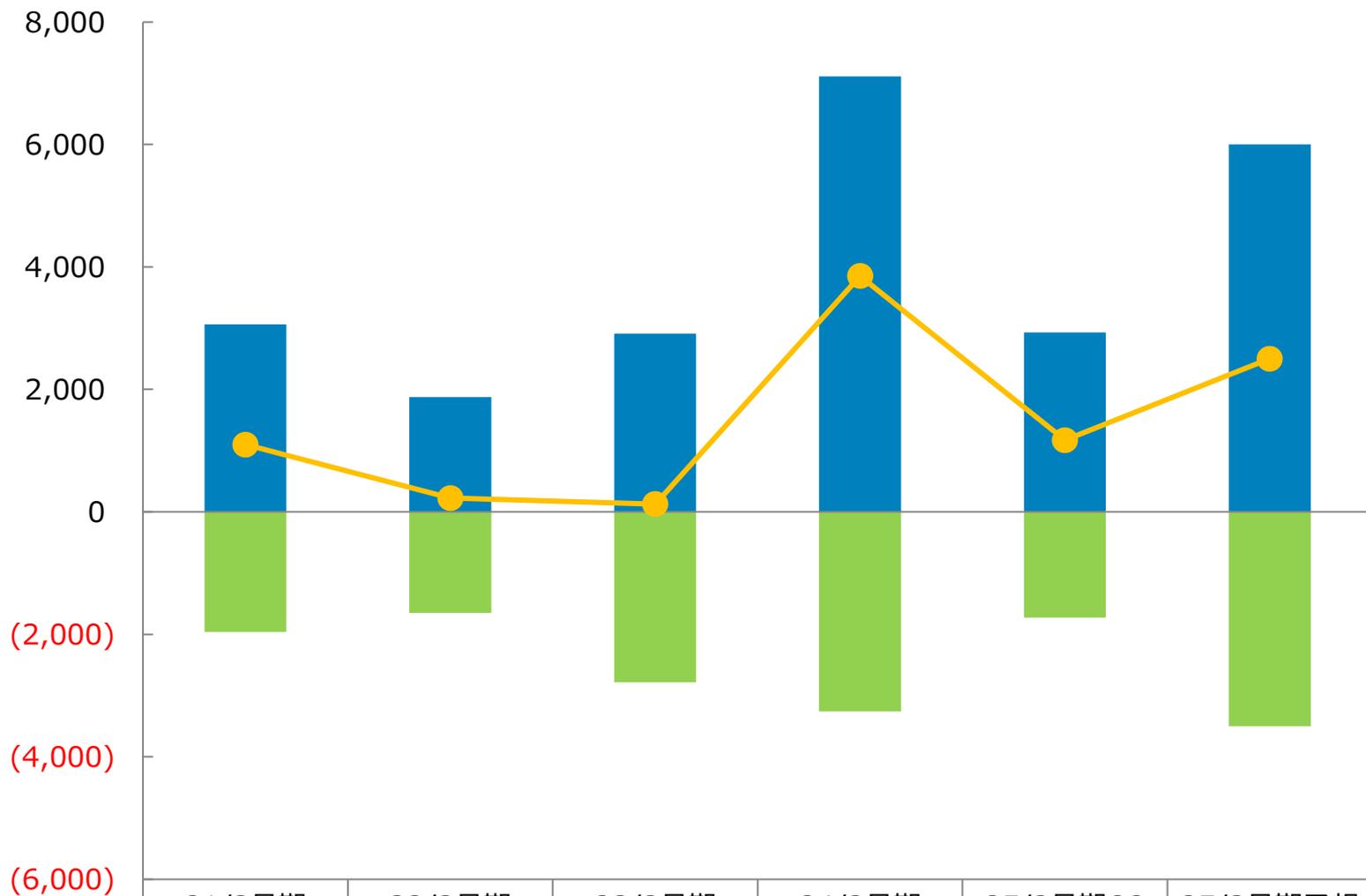
営業利益



	20/3月期	21/3月期	22/3月期	23/3月期	24/3月期	25/3月期予想
営業利益率	3.0%	1.8%	1.1%	1.0%	3.3%	1.4%
為替レート (年間平均)	109円	106円	112円	136円	145円	152円

(2) キャッシュフロー

単位:百万円



■ 営業活動によるキャッシュフロー

21/3月期

3,060

■ 投資活動によるキャッシュフロー

22/3月期

(1,962)

● フリーキャッシュフロー

23/3月期

1,098

24/3月期

1,874

(1,650)

224

25/3月期Q2

2,911

(2,784)

127

25/3月期予想

7,111

(3,260)

3,851

25/3月期Q2

2,930

(1,729)

1,170

25/3月期予想

6,000

(3,500)

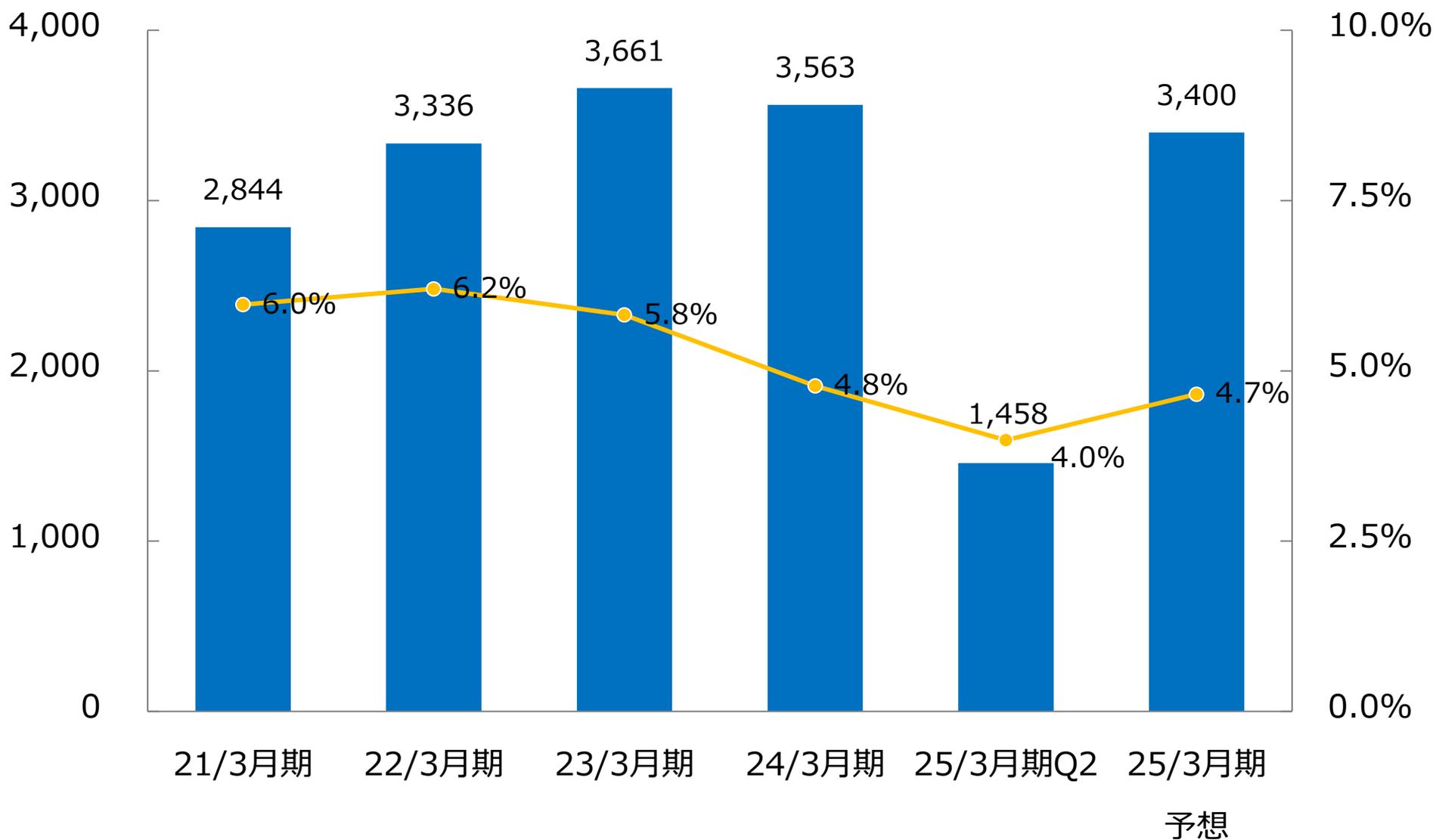
2,500

(3)減価償却費

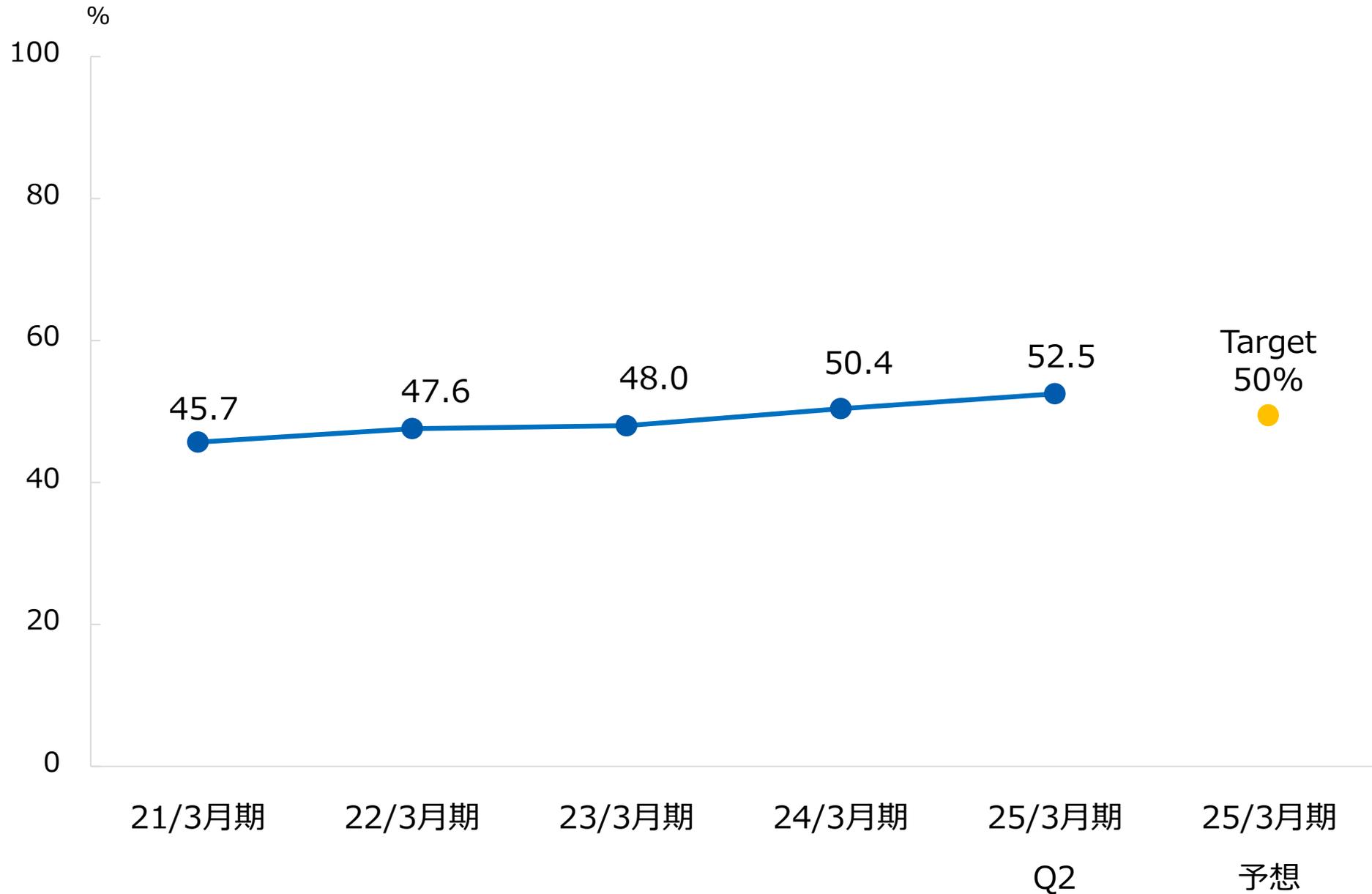
単位：百万円

■ 減価償却費

● 売上高比率



(4)自己資本比率



(5) 連結経営指標の推移

	24/3月期	25/3月期 第2四半期
自己資本 (百万円)	34,230	36,110
総資産 (百万円)	67,948	68,773
1株当たり純資産 (円)	3,572.22	3,763.63
1株当たり純利益 (円)	188.15	—
株価 (円)	1,676円 2024年3月末日	1,183円 2024年9月末日
ROE (%)	5.90	—
ROIC (%)	5.70	—
PER (倍)	9.49	—
PBR (倍)	0.47	0.31

当資料には将来見通しが含まれております。将来見通しは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。この将来見通しは仮定または仮定に基づく根拠が含まれており、環境によっては想定された事実や根拠は実際の結果とは異なる場合があります。

また法令上、別途の定めがある場合を除き、当社はいかなる将来見通しも最新のものとする義務を負っておりません。

【本資料に関するお問い合わせ先】

株式会社アルファ

総合企画部企画課

TEL : 045-787-8401

URL : <https://www.kk-alpha.com/>